

委員会だより

< 10月5日(日) 14名出席 >

- 9月度会計報告(甲斐委員、資料配布)
 - ☞ 一般会計:
 - ◆ 保険料: 火災保険料支払い。
 - ◆ 本部分担金: 本年2回目の支払いが発生。
 - ◆ 9月は色々分担金など支出が多く、単月収支はマイナス。
- 七五三のお祝い 11月9日実施決定
 - ◆ 男女問わず3,5,7歳対象(御絵、メダイ、飴)。
 - ◆ 説教の後で神父様の祝福。子供のためのミサの形をとる(朗読も子供を…)。
 - ◆ 初聖体(11月23日)については、高野助祭が別途考える。
- プレハブ建屋の利用法
 - ◆ 多目的な利用を考えるが、要理学校優先で使用。
 - ◆ 今後様子をみながら計画的な使用・運営法を検討していく
- バザー(10月19日)に関して
 - ◆ 山崎神父様、松村神父様が来られる旨の話がある。(ポラテンティアさんと)
- その他
 - ◆ ミサの先唱者に関して、萩原さんができない時は女性の方(典礼委員)にお願いします。
 - ◆ 10月3日に、第五地区の司祭の集まりが、交流と打ち合わせを目的に、中和田教会で行われた。3ヶ月に一回このような会合が行われる。次回は1月18日、藤沢教会にて。
 - ◆ 地区活動の一つである第5地区福音宣教委員会の平成16年度当番教会は中和田教会と戸塚教会。(2年間) ⇒ 当番教会は、場所提供や司会、書記などを分担することになる。また、宣教司牧評議会への出席もある。(第5地区からは、司祭1、信徒2(注)、修道者1が出席)注:戸塚、中和田各1名
 - ◆ 横浜教区婦人同志会について(グルニエ神父様の意向) ⇒ 小教区として参加する必要がある。ただし、会員としての参加は各自自由。代表者は、教会の代表として選出する必要がある。形をはっきりさせて、協力する。

壮年会だより

< 10月12日(日) 12名出席 >

- 10/5 教会委員会報告(詳細は広報なかわだ)
2. 審議事項
 - 会委員会報告(詳細は広報なかわだ)
 - 2. 審議事項
 - (1)バザーの準備について
 - a. バザーの準備・当日の各人の役割等、最終打合せを行った。
 - b. バザー終了後の懇談会開催を決定した。
 3. 報告事項
 - (1) 秋のハイキングについて
 - ◆ 秋のハイキング予定を掲示しました。参加希望者は名前を記入して下さい。
 - (2) 中和田教会壮年会々計取扱細則の確認
 - ◆ 前回承認時の修正部分を、確認した。
 - (3) 11・12月聖書朗読者・共同祈願・奉納者

婦人会だより

< 10月26日(日) 28名出席 >

1. 委員会報告(委員会だより参照)
2. バザー報告・反省会
 - ◆ 婦人会関係のバザー収支報告(会計係)
 - ◆ 役員さんから、「糸の会」や皆様の協力に対しお礼のことがありました。
 - ◆ いくつかの反省点が出されましたが、概ね好評でした。
 - ◆ 食堂で使用するガスコンロの台について話合いがありました
3. お知らせ事項
 - ◆ 神父さまお留守中は、教会を使用した方は特に電気、ガス、戸締りをよく確かめてください。
 - ◆ 11月の死者のためのミサの謝礼は、神父様へ個人的にお渡しください。(ミサ謝礼用の袋は、25円で売店にあります)
 - ◆ 「泉区民クリスマス」については、「ニューズレター」をご覧ください。

次回例会は11月16日(日) 当番はA地区です。



広報 なかわだ

第295号

11月の予定

- 委員会 11月 9日
- 壮年会、婦人会 11月 16日
- 死者の為のミサ 11月 1日
- 七五三御祝 11月 9日
- レジオ 11月 14, 21, 28日



2003年 11月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

平成15年11月2日

渡辺禎雄聖書版画より



絆 - きずな -

パウロ 高野 哲夫



11月は、1日が「諸聖人の祝日」で、2日が「死者の日」です。この世で生を受け、人生を刻み、今は天の父のもとに帰られた方々を思い起こし、また、その方々との結びつき、絆を確認する時です。それぞれの小教区では、墓参をしたり、先祖の永遠の安息を願ってミサをお願いしたりします。中和田教会でも聖堂入口の掲示板には、帰天された家族の方のためにミサをお願いするための一覧表が張り出されています。遠い先祖のためであったり、近い家族のためであったり……。

しかし、わたしたちは、何故その人たちを心にかけ、その人たちのためにミサをお願いするのでしょうか？ それは、わたしたちがその人たちとの結びつきを、今も意味のあるものと感じているからにほかなりません。生前、親しかった人の場合はなおさらです。

ところで、福音書を読むと不思議です。私たちは、死者のために思いを馳せる事は当然なことと感じているのに対して(マタ18:21)、イエスは、「わたしに従いなさい。死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい」(マタ18:22)と言うのですから……。しかし、……。ちょっと待ってください……。イエスはわたしたちに、「死者の事に関わってはいけない、放っておきなさい」と言っているのでは決してないと思うのです。だって、兄弟ラザロの死を悼みながらイエスに希望をおく、姉妹マルタとマリアに、「ラザロに関わってはいけない」などとは一言も言っていないのですから。……。それどころか、ラザロに命をプレゼントするじゃないですか！マルタとマリアにラザロを返したのです。

愛であり、命であるイエスがいるからこそ、他者との関係が生まれ、思いやり、この世を去っても、その関係を失うことなく、永遠に生き続けることができる……。イエスがいなければ、それらすべては、むなしく過ぎ去るだけなんだ……。と。だから、いつもイエスは、「わたしに繋がっていなさい……」と言っているように感じるのです。

それぞれの絆に意味と命を与えてくださる主はたたえられますように。アーメン。

ミサ当番表 (2003年 10、11月)

月/日	主日	朗読	共祈願	奉納	侍者	オルガン	月/日	主日	朗読	共祈	奉納	侍者	オルガン
11/2	死者の日	清水・岩崎	清水		石井拓	森田	12/7	待降節第二主日	鈴木・青柳	鈴木	鈴木・荒木	石井拓	岩 渕
11/9	ラザラン教会の献堂	青	青	青	石 崎	保 科	12/14	待降節第三主日	青	青	青	石 崎	森 田
11/16	第三十三主日	清水・阿部映	岩崎	清水・宮崎ヒ	下迫瑠	岩 渕	12/21	待降節第四主日	東原・上野	鈴木	東原・七浦	下迫瑠	保 科
11/23	王であるキリスト	初聖体	初聖体	初聖体	下 迫	森 田	12/24	主の降誕	壮・婦	壮	壮・婦		岩 渕
11/30	待降節第一主日	美底・石川	阿部映	美底・清水	石井大	保 科	12/28	聖家族	竹内・鈴木	竹内	竹内・町田	下 迫	森 田

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏: Tel 802-6258)迄お申し出下さい。

バザー風景 (2003. 10. 19)





京都の大晦日と盆の夜景

下村 毅

今回は、世俗的な旅を紹介します。

何故大晦日と盆なのか

昔、神信仰の時代(聖徳太子が中国より仏教を日本に入れる前)は、一年を現在の半年で数えていた。(人生100歳の記録は、50年生きたと言われている。)そして、一月の正月と七月の盆が有り、共に(年初に)神を迎え先祖を崇拝する神事が現在も残っている。今でも「盆と正月が一度にやってくる」と言う表現が残っている。

2002年京都の大晦日は、【平安神宮】に「かがり火」が・【上加茂神社】に、神が降りると伝えられる『立砂』(円錐型砂山)が準備されている。そして、【下鴨神社】では、「なんとなく犯してしまうけがれ(罪ではない)」を反省する。《大祓式》が行なわれていた。

その夜21時に、【おけら火】を見学するため【八坂神社】に行った。境内は、「真直ぐには歩けない」程の混雑だった。そして、既に境内三箇所【おけら火】が燈されている。

おけら(白朮)とは、キク科の無病息災に利く薬草で、乾燥させ縄に編んだ物を『吉兆(めでたい)縄』と呼ばれ、【おけら火】から採った火で雑煮を炊き、「一年間無病息災」を願う。燃え残った火縄は「火伏せのお守り」として台所にお祀りする。

法被(はっぴ)を着た『吉兆縄』売りが、大声で「火縄はいらんかねー」と言う。火縄を買い【おけら火】を採った。火が消えないように「くるくる」と回していたが、縄が暴れて難しいものだ。

新年を迎える【智恩院除夜の鐘】を聞きくため、【智恩院黒門】の急な階段を登り、更に、鐘楼までの山道階段を登った。大鐘楼には3周の人垣が出来ている。鐘は大きく突き棒も人間の胴周り程の太さで、長い引き紐が15本と、中央にゴブの付いた突き紐が下がっている。

0時5分前 大僧正を先頭に20数人の僧侶が入場し、大鐘を取り巻き、『般若信教』を三度合唱した。いよいよ除夜の鐘の始まりだ。茶色の法衣の両袂を「襷(たすき)掛け」に被り、突き紐を持った僧侶の「ヒーツ」の掛け声に合わせ15本の紐が大きく引かれ、掛け声の僧侶が仰向けに倒れ込み全体重を掛け、大鐘を撞くと「低い鐘音」が観衆の腹に響き渡り、京都の夜空に飛んで行った。

こうして2003年の正月を迎えた。{その後の八坂神社(祇園さん)は、境内は勿論、広い祇園通りが車道・歩道共に、人で埋まり歩けない。}

そして、八ヶ月が経ち旧盆の「京都五山送り火」見物に、再び京都に向った。

「盆」とは先祖の御霊を奉る(みたまをたてまつる)・崇拝することで、神事の盆と、仏事行事の「盂蘭盆(うらぼん)」(インドの農耕儀礼)とが重なったもの。大文字焼きは、精霊送りの門火を、江戸時代に入って山に点すようになったもの。

19時「大文字送り火見学」のためホテルを出た。京都の北向き道路は四条通りから渋滞、タクシーを降り、京阪「出町柳駅」先の歩行者天国で高野川橋に出た。既に橋幅2/3は「東山三十六法の妙意ヶ嶽支峰大文字山の火」見物人で溢れている。警備の警官に聞くと「早い人は14時から並んでいます」(ウヘー)。人を掻き分け、高野川と加茂川合流地点の中州公園に出た。ここも見物客で一杯だった。

20時「ウォー」と声がる。人の頭間から見ると暗闇の中に橙色の火が燈った。近く街灯が炎いして大が「犬」や「太」になった。場所を50m程替えると「大の字」も燃え上がり夜空にクッキリと見えた。15分遅れて松ヶ崎(大文字の北側山)に「妙法」が点火される。河原にカメラが列でセットされている。転げ落ちそうな土手を下りカメラと同じ目線で、高野川橋脚の下を覗き込むと、「法」の字がクッキリと見える。(妙法の妙の字は見えない)更に5分後、西加茂船山「舟形」の点燈に合わせ、土手に上ると遠くに「舟形」は見える。しかし遠いためか、手前の街灯が炎いしているのか、船底は見え難かった。「大」と「法」で満足し、人ごみの中を戻る。30分焚かれた「大」の火が細くなり点になり火は消えた、荘厳の中に「先祖は皆んな帰って行った」ようだ。



高野さんに続く人を… [第36回一粒会大会に参加して]

一粒会 竹内 広治

9月23日秋分の日。横浜教区一粒会大会が、本年度担当の静岡県志太・榛原地区の4教会(藤枝、島田、吉田、焼津)のご尽力で、焼津市文化センターで開催されました。シックな多目的公共施設で、この大会にはうってつけの会場だなと感じました。いずこでも会場の確保が大変に難しいことだとされる中で、この成功を考えますと、地域での真摯な司牧と交わりが、如何に大切なことであるかを痛感いたします。

当日、第5地区委員さんのお世話でチャーターされた大型バスは、ほぼ満席の会員を乗せて藤沢宿を出発。中和田教会から参加の8名も旅のお仲間として、いよいよ東海道ぶらり旅の始まりです。道中お天気もまずまずで、車内は明るく、あちこちでお話が弾み高まると、キャンディー、クッキーの差し入れが始まり、一層賑やかになりました。

やがて、右手に憧れの富士山がほんのり薄化粧でお出迎え。横浜教区はどの県からも富士が仰げるとは浜尾大司教様の口癖でした。気がつけば、まもなく焼津に入ります。バスは早めの到着です。お陰で全員ゆったりと心静かに開会を待つことが出来ました。

・10:20開会

約500人の参加者の目は、舞台中央の横断幕の大会テーマに注がれます。一粒会本部委員長・福本氏の挨拶に続き、基調講演は「私の召し出し」というテーマで、今年3月に新司祭となられた浜松教会出身の岩間師が、家業としての建築の労働を通じて陽の当たらぬ社会の片隅を見つめ、地を這うような生き方の体験の中から主の呼びかけを感じ、最高齢の神学生として第一歩を歩み始めたこと、熱っぽく語られました。久々に骨っぽい司祭を見つけ得た気がいたします。

・続いて「シスターのお話」"女子修道会って何ですか?"

このようなプログラムは私にとって初めてのこと。どんなお話が伺えるのかといささか興味津々です。舞台上7人のシスター方が、夫々所属の修道会名を記した紙を前にズラリお並びです。ご年配の外人神父様の迷司会で、やや硬さが見えたシスター方も珍間の連続に、思わず微笑をもらす内に、表情も回答も円滑になり、ご自分の召し出し、修道会の目的、そして現況と展望など、時にはユーモアを交えてのお話しには、期待以上のものがあり感動いたしました。硬軟使い分け、巧みにとぼけた名司会の神父様、短時間にご賢答のシスターの皆様ご苦勞様でした。

・12:00昼食

三々五々、グループ毎にお弁当を開きます。お知り合いの神父様やシスター方を囲んでの歓談の様子が、同窓会の様な雰囲気を楽しそうです。

・12:50大会垣例のパネルディスカッション「司祭たちに聞く」

神父様方の召命にまつわるエピソードや、不思議な出会いもさることながら、実は司祭いじめ意地悪ショーで、如何にして本音を聞き出せるかを、楽しみにしている人もいます。今年の犠牲者は、鶉飼師、岩間師、ソン師(ベトナム)。司会者の皮肉な質問に辟易しながらも、それなりのご回答は見事です。鶉飼師はモデラートル(神学生指導)としての体験を語られ、神学生の激減を憂慮されながら「会員のお祈りを」と結ばれ、ソン師は、故郷ベトナムのカトリック的な環境に生まれ育ち、ごく自然に召命のお恵みを戴けたことを神に感謝していると述べられました。3人のパネラーの今後のご健康を祈りましょう。

・14:00梅村司教・参加司祭による共同司式の大会ミサ

本日の棹尾を飾るべく厳かに捧げられました。参加者一同、共に願い、共に祈る喜びに満たされ、このときより会員としての責務を改めて守り果たす決意をいたしました。大会の運営に最善の努力を尽された関係各位に感謝の拍手が響き渡り閉会です。

帰路につくバスは「焼津さかなセンター」に立ち寄ります。おみやげや今夜のおかずを仕入れる人、パクパクお口に入れる人、晩酌のつまみに蒲鉾…。それは私が買いました。

バスは無事藤沢宿に戻ります。皆様お疲れのご様子ですからお静かに。お休みなさい・・・。



お知らせ

転出

阿部敏様 茅ヶ崎教会へ(10月14日付)

第5地区湘南キリスト教セミナー

11月15日(土) 青木 昭氏「システーマのミケランジェロ」
11月22日(土) 細谷亮太氏「医師としてできること、できなかったこと」
11月29日(土) 国井健宏神父「キリスト教音楽の旅ークリスマスに向けて」
いずれも、会場は藤沢教会。時間は午後2時より。

七五三のお祝い

対象者: 美底光紀ちゃん(3歳)
萱場大智ちゃん(3歳)

訂正

10月号山田さんの投稿の写真説明が誤っておりました。正しくは『フィレンツェの街、ミケランジェロ広場よりの眺め。「花の聖母大聖堂」、「ジョットの鐘楼」が見える。』でした。訂正してお詫び致します。